

し ぜん と の きょう せい
自然との共生

オオサンショウウオ

くに とく べつ てん ねん き ねん ぶつ
国の特別天然記念物



瀬戸の北側を流れる、蛇ヶ洞川にはオオサンショウウオがすんでいます。主に西日本に生息しており、瀬戸は最も東側の貴重な生息地です。オオサンショウウオは水中で暮らし、隠れるところの多い里の近くの川にすんでいます。里の自然は川や山によって支えられています。川や山を守ることがオオサンショウウオを守ることになるのです。



▲蛇ヶ洞川の風景

おお 大きな しっぽ

せ かい さい だい
りょう せい りん
世界最大の両生類
(カエルの仲間)

せい ちよう
成長すると
1m以上

うし あし ゆび
後ろ足の指
5本

せ と し
瀬戸市の
ログマークの中にも
オオサンショウウオが
いるよ!

さわると
山椒の実の匂い
がすることから
オオサンショウウオ
と呼ばれるように
なりました

はな 鼻

め 目

おお 大きな
あたま 頭と口
ちい 小さな 目

えさは
さかな 魚や虫



▲ホフマンの森

はげ山からの再生



▲孵化した幼生



▲卵

瀬戸の山は、やきものの燃料に使うため木が伐採され、多くがはげ山でした。山を再生するため明治時代から土砂くずれを防ぐための植林が行われています。ヨーロッパの技術を導入して、瀬戸の山で行われたのが「ホフマンの砂防工事」です。工事の跡は「ホフマンの森」や「萩御殿の森」に残っています。現在の森はこの工事によって再生した森で、集中豪雨などによる土砂災害から私たちを守っています。